

# 遠距離介護の試行錯誤 ―テレビ電話で母をみる―

(第7回)

家族の会会員 長坂 寿俊

## 〔カギがなくて家に入れない〕

2009年7月、ある日の夕方、近所の人から携帯電話に「お母さんが家に入れなくて困っているようだ。玄関は鍵がかかっているしバッグも何も持っていない。どうしましょう」という連絡がありました。ケアマネージャーに電話して、すぐに家を見に来てもらったが、やはり母は鍵を持っていません。家には入れないので、とりあえず事務所で母を預かってもらい、急遽、新幹線で京都に向かいました。事務所に着いたのは21時半すぎ、母は何事もなかったかのようにケアマネージャーや守衛さんとおしゃべりしながら笑顔で待っていました。鍵とともにバッグは家にありました。母は「実家に行こうと玄関を出たが、鍵がないので入れなかった」と言います。手ぶらで表に出て、何気なく施錠してしまったようです。手で回すことによって施錠できることに今まで気づきませんでした。全くうかつでした。再び何時このような事態になるかわからないので、玄関表の錠前は取り外しました。外鍵がなくても留守中にわざわざ重たい格子戸を開けて入ってくる人もいないでしょう。外鍵を取り外した件はデイサービスセンターやケアマネージャーに説明しました。

## 〔小規模多機能型居宅介護の検討〕

この出来事のあと、ケアマネージャーから「小規模多機能型居宅介護について検討してみたらどうか」という話がありました。小規模多機能型居宅介護は「通い（デイサービス）」を中心に「訪問」、「泊まり（ショートステイ）」などを組み合わせて介護支援が受けられます。今通っているデイサービスセンターでは突発的な「泊まり」に対応できないからです。幸いにも近くで新しい施設が建設中だとか、とりあえず申し込む方向で話を進めてもらうことにしました。

しかし、母の認知症の症状は少しずつ確実に進んでいるようです。いつまでも今のテレビ電話で監視しながらの遠距離介護が続けられるかどうかわかりません。私もしばらくは京都に帰れないし、思い切って、母が体力的に元気な内につくばに連れてくることも選択肢の一つになってきました。以前なら「京都の家からは離れない、絶対にどこにも行かない」と頑なだった母も、呆けてきてその意志も薄らいできているかも知れません。そろそろ、つくば移転への潮時でしょうか。

## 〔つくばのグループホームを見る〕

2009年8月28日、善は急げ、何か急に思い立って、つくば市役所に相談に行きました。小規模多機能型居宅介護よりも認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の方が母のこれからを考えると良いかも知れません。その日の内に、市内のいくつかのグループホームを見ることにしました。その中で、家からも職場からも近く、生活環境にも恵まれたグループホームに1名の空きがありました。「介助なしに歩けること、箸を使って自力でご飯が食べられること」が入所時の条件だそうです。ま

た、利用者は施設の所在地の市町村に住民登録している認知症要介護高齢者に限られます。

### 〔入所準備と異動の手続き〕

話が急に決まったので、これからの準備が大変でした。9月4日と決めた入所予定日までは1週間です。まず、グループホームでの日常生活に必要なものを買揃えなければなりません。衣類は普段着としてポリエステル製の洗える着物、襦袢、寝巻、下着、靴下、日用品として室内履き、コップ、ハンガー、タオル、食事用に茶碗、汁椀、箸、湯飲み、寝具では掛け布団、敷き布団、シーツ、枕、毛布やタオルケット、衣装ケース、時計、その他にも机、イス、テレビ等を新たに購入しました。また、すべての持ち物には名前を書き、これらをグループホームの居室に運び込みました。

8月31日、京都市上京区役所で母の転出手続きを行いました。転出予定日は9月3日とし、つくば市に提出するための介護保険受給資格証明書、後期高齢者医療負担区分証明書の発行を、H病院からは病状報告書を発行してもらいました。

9月3日、つくば市役所に母の転入届を出して、また、京都に向かいました。母は今日が最後のデイサービス日になります（・・そのはずだったのですが、後日、区役所から「転出当日はもう京都市民ではないので、デイサービス費用について1割負担の介護保険はききません」という連絡とともに、全額負担の1日分の請求書が送付されてきました！！）。そして、今日までお世話になったケアマネージャー、デイサービスセンター、交番、隣近所の人達に最後のお別れをして回りました。

### 〔いよいよ京都を離れる日〕



9月4日、母にとっては京都での最後の朝です。いつものように目覚めました。母には何も言っていない。簡単な朝食の後、できるだけ日常と変わらない雰囲気、デイサービスに行く着物を着せ、バッグを持たせて一緒に家を出ました。表通りでタクシーを拾い京都駅に向かいます。

母「どこへ行く？」、私「京都駅」、母「そしたら八日市に行くのか？（滋賀県の母の実家のこと）」、私「そうだ」、母「おじいさん、おばあさん、元気かな？（とうの昔に他界している母の両親のこと）」、私「いつも元気だよ」、母「長生きやなあ！」。

京都駅で妻と合流し3人で新幹線に乗り込みました。

新幹線車中で母は景色を眺めながら「そろそろ八日市かな？」、私「まだまだ着かないよ」と言っている間に、名古屋を過ぎ、新横浜も過ぎて行きます。母「何か遠いなあ、本当にまだ着かないのか？」、私「じきに着くよ」。

やっと東京駅に到着です。昨日から駅地下駐車場にとめておいた車で、直接つくばのグループホームに向かいました。この間、母は特に気にする様子もなく、無事につくばまでついてきました。

つづく